

No. 6 39. 8. 29 発行所 釧路アスナロクラブ編集部

目次

1.	クラブの歩み	1
2.	研修会開催を望む	1
3.	求人難に対処する道	2
4.	高血圧症と米油	2
5.	小さな会社	3
6.	洋酒について	3
7.	秋風の吹く街	4
8.	はな	4

あすなるの歩み

(その六)

一、昭和三十九年度総会、四月十六日午後六時、於トキワゲル別館議案 ①昭和三十八年度の経過及び会計報告、②新年度の事業計画、③部会活動の促進、④役員改選、⑤会則の変更、⑥新会員について、⑦会報発行、その他について協議が行われた。

各担当会員からの報告があり、続いて役員改選に入る。冒頭に於いて各役員から今期は辞退の意思が表明されたが、白紙に返して投票を行った結果、次の諸氏が選出され、会長始め役員、会員一同がこぞつて沈滞ムードを返上して、新しい計画に基いて活動を開始する事になった。

- 会長 手林俊夫
 - 副会長 今田英三
 - 理事 横地重幸
 - 〃 儀政政夫
 - 〃 榎正義
 - 会計 佐々木政勝
- 総会終了後懇親会に入り、新年度のプラン等に和気アライ。二、三十九年度第二回役員会五月五日午後六時六名、部会の編成、新会員について等々。

この役員会に於いて釧路経済懇話会に加入する事も合せ決定する。尚、部会は研修部、広報部、原生部の三部会により活動する事になり次回例会に於いて正式決定。三、三十九年度第二回例会五月十八日午後六時、於レストラン泉屋。

◎新会員紹介 (総勢三十三名)
 榊川田商店 川田春旭氏
 榊室本鉄工所 室本義信氏
 北日塗装 榊米田 慶氏
 榊岩田板金所 岩田 守氏
 ◎各リーダー
 研修部長 榊向角商店 浅野会員、
 副部長 札幌 榊村小沢会員、
 同、釧根 榊糠河合会員、
 広報部長 榊藤井商店 海沢会員、
 同、広報副部長 池ヶ谷 自転車店
 厚生部長 榊敷島商会 瀬村会員
 厚生副部長 榊グリンクロス 最上
 会員

各部毎に検討の結果、研修部はテーマとして給与体系の問題。広報部は会員職場訪問(インタビュー)。厚生部は野外レクリエーション等を取上げプランを練る。四、第三回役員会、六月十日、午後六時、於宮田消防器会議室 八名、例会並びに野遊会について、研修資料について、会報について、終了後、参考フィルムにより試写会を行う。

五、第三回例会、六月十四日(日)午前十時、於市内北斗牧場 毎月例会日十六日のところ行事と重なる等の事もあつて緊急に青室例会と野遊会を兼ねて行う。厚生部一同の奔走と会員多数の参加を得て盛況裡に終る。参集場所、釧路ホンダモーター

前、晴天に恵まれて午前十時出発 会員それぞれの愛車にハンドルさばきも軽やかに一路めざすは北斗牧場へ.....
 松田会員の配慮を得て、北斗牧場を背景にジーンズ汗鍋をつつき、演芸に文芸に? 日頃の腕を競い、会長よりそれぞれ大量の賞品を手渡され、初夏の牧場に大いに英気を養つた一日であつた。
 尚、榊会員を始めハミリ及びカメラの撮影もされ出来上りがお楽しみ。
 (詳細は広報部に於いて記録)

尚、この会より新会員榊沖食品の沖氏が加入し紹介される。六、第四回例会、七月十六日、午後六時、於レストラン泉屋 談話者 釧路ホンダモーター 榊田会員、釧路モトクロス大会について全員より近況懇談会を行う。七、このほど北日塗装 榊米田会員を代表者としてのホテル望洋が春採湖周辺を一望にする絶景の高台に新築落成を見て、その祝賀会に一部会員が出席した。

尚、当ホテルには渡辺木工、川田建材、室本鉄工等の会員が経営に加わつて利用ので、商談、その他にせいぜい利用されるよう御案内申上げる次第。以上 (佐々木記)

研修会開催を望む

機関紙アスナロはスタツプも揃つて活発に発行される事を期待していたがお互いの多忙がなせるいたすら

か仲々難産して各員諸士に申訳ない。これからは灯下親しむの候とやらで、スイスイと今迄発行されなかつたプランクも埋めてくれるであらう事を私は大いに期待している訳です。
 最近会の動きにも見られる様に私達の活動も親睦を深める事に重点がおかれ、会本来の研修団体の使命を忘れがちな昨今に今一度現状打破の為めティスカンションも必要なのではないだろうかと思つたのです。
 先に研修部会より給与形態についてゼミナールを行いたい旨申出であつたのですが、まだその資料も集らず、焼け残つた家の柱の様に、空しく活動の柱だけが残つている状態です。「曲り角」と言つて一種の流行語があるが、各社とも要員難による給与形態については種々悩みがある事と思つた。
 生活保障給が能率給か此の曲り角を一刻も早く究めたいもの思う心は皆な変りはないのだが、イザやろうとなると歯車が一致しない、そんな悩みが何時もつきまとい、やはり膝を交えて話しあう機会をより多く作りましよう。その意味で各部会の方々の奮起を促したいと思つたので、部会活動が盛んな時は会の成長も目ざましくなつたと思つたのです。
 親睦行事のみが先行していると言ふ事は厚生部の活動のみが目立っていると言ふかと思つたが、
 研修の大きな柱も立っている事です。ので、何んとか資料蒐集の上、九月中には実のある研修会が開催される様、私は希望して止まない次第です。(榊)

求人難に対処する道

果して十分努力しているか

求人についてはこのごろは、どの企業でも、すいぶん苦労しているようである。そして智慧を多し、いろいろな方法を考へて、その効果があがるように努めているところが少くない。

坐して待つとか、ありきたりの方法だけにたよっていて、それで「人がいない、いない」とポヤいているのは、まったく智慧のない話で、また見様によつては横着なことも云えよう。そんなことで、人材の確保が出来る「よき時代」は、もうすぎ

我が国で油という昔は殆んど菜種のこと多い、そのほかにゴマ油が若干使われていた程度であった。昭和に入つてからは外国から優秀な油の製法が導入され、大豆油や米油の精製にも格段の進歩をとげて参つたのであります。米糠には約十九パーセントの含油分がありこの油分抽出精製し食用油としたものが米油である。油には種々の脂肪酸が主成分として含まれており、油脂の種類によつてそれぞれ含有率が異なる。この違いがそれぞれの油の性質となつて現われてくる。そこで米油の大きな特長としては主成分がビタミンF（リノール酸）であり世界中の食用植物油のうちで動脈硬化の原因であ

さつてしまつてゐるのである。

企業における人的要素は、いまさらうまでもなく、きわめて重大なものである。これによつて企業の優劣が決定される、根本的な要素の一つたといえる。だから、よい人材の確保には、相当の精力を注いで決して不当ではないのであるが、果してこの企業でもそのようにやつてゐるであらうか。……そのうちまた不況期でも来れば、人間などいくらでも余つて、よいどり見どりになる、などと云う考えが、心のどこかに巢食

る血液の中の「コレステロール」を低下させる作用が最も大きいとされてゐる。動脈硬化症や高血圧症などの血管損傷の患者数はここ数年で急速にふえ「ガン、心臓疾患」をおさえて我が国死亡率のトップを占めてゐる。……

高血圧症と米油

高血圧症の中でも最も治りにくいのは動脈硬化を伴う高血圧であるが、動脈硬化の最大原因は「コレステロール」でありこれが血管中にふえてくると血管の壁にこびりついて血液の道を細とし動脈硬化のうちでもつ

つては無いだろうか。人材獲得については、直接そのためにいろいろ方策を講ずることも必要であるが、それとともに自分のところの企業を、求職側に魅力的なものたらしめることも必要で、これがむしろ根本的な本筋といえよう。……

一般的にいって、経営陣が企業経営に熱意を有し、たえず前進向上を考へ、従業員に教育に熱心で、且つそれを大事にするような、企業全体がイキイキとして活気にみちてゐる。……

とも多い粥状動脈硬化症となる「バターやラード」などの動物性脂肪をとるとこの「コレステロール」がふえるが植物性の油はリノール酸によつてかえつて体内の「コレステロール」を減少させる効果のあることは知られてゐる。……

油の効果について長年にわたつて動脈硬化の研究に従事している国立栄養研究所栄養生理部長の鈴木慎太郎博士はその研究途上種々の人体実験を行ない、これまで知られてゐたどんな植物油よりも米油は体内の「コ

企業には、若い人々は引きつけられるだろう。こういう企業のことには、期せずして求人へのツボにはまつて来るようである。

たとえば、技術者養成のために、学資を会社持ちで、従業員半半は強制的に夜間、屋間の学校、大学に進学せしめて、技術者を養成するのも求人対策の一つとなるであろう。即ち自らの手で技術者を作るといふことも、一つのアイデアであり、技術者がいないと騒いでいるが、考えれば道はあるということである。……

それから若い社長などは、どんな新しいことをやつて、活気を旺盛させ、提案制度等も作り、よい提案はほとんど採用し、よい提案は必ず即刻実行に移す等、色々新しい方針を立てて企業に活気を持たせるのも、

「コレステロール」濃度を低下させる働きが強いことを発見した血清「コレステロール」の低下作用は近年強調されて来たような単なるリノール酸の働きだけではなく、米油に含まれてゐる不飽和化物中の微量物質が有効に働くものであることが立証された。……

つて異なるので一概にいえないが、経済的には少くとも毎日三十グラム以上摂取することがよいとされてゐる。……

求人難打開策の一つである。この様なイキイキとした活気にみち、「働き甲斐」のある企業には、人材が集まるよになつてくる。

このように、いろいろな会社で心を砕いて求人対策をやつてゐるのである。それに対し、ロクな努力もしないで、ただ人材がこない、こないといふでは、そんな無能な横着な会社には人材はますます来ないだろうし、間違つて来たとしても、すぐ出ていってしまうことだろう。……



(会員訪問)

一寸失礼

南大通り一丁目、ロータリーの一角にゆるぎなきタズマイの山本商事の店舗がある。アスナロ会長手林氏のオフィスである。訓練された女店員の優雅な応接に緑茶の又一入美味な事、店内狭しとサンブルの並列営業品目も多種多様セメントからベイント迄凡そ近代建築に必要なものは総て網羅している。最近油を売る事を止め相で文字通り献身奮励する十数人の従業員顔も明るい。……

「私の行き方考え方」「非劇の経営者」の本を少しずつ読んでみました。私の所の小さな会社のスケールとは違いますが、商売には変わりなく思われ、私の会社を振りかえてみますと現在の行き方の間違いが発見され、今後の方針に一つの勉強になり、また今度自由競走に遅れずに行くには、又従業員との相互の信頼を何如に行うべきかを反省してみますと、

では経営管理が重要になって来ますが、それがなかなか出来ない現在の毎日追われてるからと逃げたくなるのです。アメリカやヨーロッパでは小さな会社が経営管理を行ない、仕事の意義をつかまえて居るとの事、私達の毎日に計画を作る事が非常に下手で少しずつ実行に移す様に致して居ります。

話は違いますが、私の所では古いと言われるのです。昔気質だとも言われます。なぜなのか印判が古い歴史を持つ為めなのかもしれない。然し現在では古いはずの印判がスイッチで印が彫刻される時代になり、又古いはずの印をお客様が必要とするから又変である。又ハンコや万年筆と事務用品を売って変んだと言う人が居ります。なぜでしょうか、事務机の上に印箱がありインクスタンドありペンありソロバンと又ハンコがあつても不思議ではないわけですが。事務の合理化の前に機械を考へます。所が機械では出来ない。又機械では経費が掛り過ぎる所に

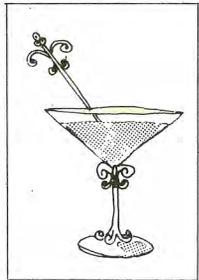
と考へるのです。私の所にも二十五名程の従業員が居りますが、社員給料諸手当仕入諸経費を考へますと一定のマージンがあつて始めて商売として成立するのではと知つて居り乍ら見積書を見ると競走する方に走つてしまふから不思議だ。「儲けが第一で儲けにならない仕事はとらない」その褒りサービスと競走相手のもたぬ価値を売つて利益を得る事を考へなければ小さな会社は成り立つて行かないのかもしれない。

又機械では経費が掛り過ぎる所に印の小さな会社は息が出来るのです。でも大会社並みの大きな希望を目の前にぶらさけて一歩一歩前進する事が出来れば小さな会社は幸な事だと思ひます。

とかく人間の感情はむやみに酒といふものから切つても切れない縁に結ばれていた。木の実を嚼んで醸す酒も一本何千円もする文明の酒も飲むものとして陶酔の砂境に遊ばせることに於いては変りない。

美しい壺に詰められた洋酒、これこそ近代的魅惑の源泉地である。洋酒を大別すると醸造酒と蒸溜酒と混成酒の三つに別けられる。

醸造酒といふのは色々の原料を醸造してこしらへたもので、ビール、ブドウ酒等はこれである。蒸溜酒といふのは醸造酒を蒸溜してこしらへたもので、総体的に辛い酒で、ブランデー、ウイスキー、ジン、ラムなどこれである。大体蒸溜した時は無色透明であるが、それを長く貯蔵して置くと、自然に円熟してあの美しい色になる。従つて蒸溜酒は貯蔵年数の永い程よいのである。混成酒とはおなじみのコクテールで蒸溜酒にフルーツ、ジュース、薬味を加えてミックスしたもので、リ



チウルは蒸溜酒に糖分、蜂蜜、菓草などを加えて精製壺詰にして十数年間貯蔵したものである。どの国もそれぞれ異つた国民性があり、特殊の風俗がある様に、酒も各々特長のあるものを産出し、その国民に好まれて居るものが多い。例えば、独逸のビール、英国のウイスキー、スタウト、ロシアのウオカー、伊太利のベルモット、フランスのブランデー、ブドウ酒、シャンパン等はその代表である。

洋酒の味のきま方 正確には酒の化学的分析や、老練なる鑑定家の「きま酒」によらなければならぬが、私達でも即座にやれることがある。鑑定する五感である。

化学的には分析出来ない、いわば僅かな物質でも容易に直感し得るのが五感である。めいめい嗜好が異なる様に各人の五感の感受性もそれぞれ趣を異にするが、良い酒なら必ず直感的にピンとやつてくる。ピンとこない酒は大体に於いて良品でないと思つてそう間違ひない。

編集人のグチ

会長からヤイのヤイの催促、編集部も仲々ユルくないですよ、察して見ても頂戴よ、原稿が集らない事は何と言われても会報を出す訳には行かないのでね。最近特にお互い多忙なせいか、会の活動に非協力的になつた様に私はヒガンでんでんですが、そんな事ないよね。次号には原稿が余る位七重のヒザを八重に折つてお願いします。

(終り)

秋風の吹く街

手 林 俊 夫

曆の上からでは、此の北国の釧路でも暑さを感じさせる八月も、六号の会報が皆様のお手許に届く頃は余す処二日限りとなつて了つた。過ぎて来た八月はお世辞にも暑かつたと云えない日々連続で然も雨の日のなんと多かつた事よ、私の商売にとつても毎日毎日が「ゆううつ」の日々であつた。建設工事が一番進捗する八月が殆んど雨と悪天候の為、総ての工事が遅延してゐる現況で、発註者は勿論建設業者も、資材業者も、来る日も来る日も天を仰いで暗い気持ちになり、汗一つかかず、石油ストーブを焚いて過して居る始末で、内地の人が聞いたら驚いて了う事は請合である。連日新聞、テレビ、ラジオで話題を賑わしてゐる東京の「水飢饉」も釧路の我々にとつては遠い国の出来事のように思えてならないのである。此の「ゆううつな」日々に拍車をかけるのが、経済界の不況のニュースである。七月より道北、道央に於ける木材業者と小土建業者の倒産が目立つて増加して居る事である。中央に於ける六月危機説がじわじわと本道に上陸し始めた姿なのである。然して道北、道央より総てに多少遅れて居る釧路にも七月の半頃

よりM製パン、八月に入つてC製パン所が一億円以上の負債で整理に入つたと云う暗いニュースが現実となつて最近の話題になつて居る。倒産者自体は当然の責任として渦中の人とながら、真面目に自分の小さい企業を統て居る人がその渦中に捲込まれる事は全く不幸の事である。過去の例を見て金融関係以外は担保や保証人の裏付もなかつた。寝入りした多くの人が居る筈である。倒産者でありながら財産を隠したり、他人の名義に書替えたりするような不心得は当然罰せられるべきであらうが現実は見逃がされがちである。釧路も愈々九月に入ると例年であると澄みきつた秋晴れの好天の日がやつて来るのであるが、雨つづきの八月の不振を一挙に取戻せるすがすがしい釧路地方独特の秋晴れの日の訪れを心より待望して居る此頃である。会員の皆様も益々多忙の時期を迎える事になりますが、清々しい秋風の吹く日の間近い郷土釧路市に在つて大いに御活躍されんと御健康を折つて止まない次第であります。

終り

は

天に星、地に花、人に愛、実篤の交つた面風にこんな文句が書かれていたが、全くこの広い宇宙の、美しきものを数えるに、古人はそのたとえにした如く、四季の花こそ、人を樂しませ、心のやすらぎを与えるものはないと思ひます。ですが私が文題に書いたはなは美しい花の事ではなく、人体の花である鼻をさして言うのである。はなはだ勝手な話で恐縮ですが、日本の文字程同じ文体でその解釈の違う言葉がないと思ふ。ですが鼻を地上の花と同じく呼ばせたのも何かの訳があるのかも知れません。

顔の中央にある三角形の高まりが鼻であり、それぞれ個人によりその形も異なつてゐる為か種々人生の泣笑も生ずるのである。人の美醜を大きく左右するものにいろいろとあるが、鼻程その大御所的存在はない。西洋の歴史をクレオパトラの鼻の高低で交つた事だろうと後人がなげいた如く、仲々と味のあふ存在である。鼻の型もいろいろあり、その人の性格も何んとかなしにあらわれらしい。

私は鼻の事を書くとおもつたのは何か他意のあつた訳で無く、今日この頃の気候から、暖かくなつたり、寒くなつたりしてゐるものだから、体の調節がきかぬのか、四日程前、無性に「グシヤミ」が出て困つた。初めの内は時折鼻腔をくすぐる「グシヤミ」の心良い刺戟の度重なりと、鼻水が出るやら、のどをやられるわで、鼻に恨らみがある訳ではないが、四日はかり寝こんでしまつた。つれづれにKさんより原稿の催促があつたのを思い出し、たまにはこんな事かと、鼻の分析をした次第です。

くしやみの話しのブリ返しになるのだが、鼻毛を抜くとくしやみが出るの、あの想ひにふけりながら指先で鼻毛をさがし出し、気合のないう気合を入れて、一気に鼻毛を抜くと共に、鼻腔の粘膜を敏感にする。グシヤミが出る。机の灰皿の灰が四散する。ハツとしてあたりを見わたす、あまり上品な図ではない。セールスマンたる者鼻毛を人前で長くするべからずである。ですがヒゲ程苦にならぬものらしく、時折一本だけヤケに長々伸びた長毛の先に、何かがぶらぶらつて、ユラユラと揺れているのは、ユーモラスな光景とは言えない。

鼻下長!!あまり良い言葉ではないが、酒のたしなむ、御主人様ならば奥様族に何回かは茶化されている事であらう。

「貴方は鼻の下が長いから」とか……鼻の下が長いと言ふ言葉をどの様に解釈したら良いかと考えて見たが、やはりそのものズバリで何んと言つたら良いかわからぬ程俗化された言語だ。歯の浮く様な、世辞を言つて、何んとかなしに気を大きくして、気前の良い振りをしてチンプをはずすんだ時の顔だろうと後になつて想像して、鼻白ろむ事がしばしばある。今年になつて、友人連から馬の種付を誘われ、ちと小と嫌いな訳でちな腰弁で早速、小春日和の一日を楽しんだ時、種馬がおとなしく繋がれて居る牝馬の尾に鼻を寄せて、天に向つて鼻孔を一杯にふ

今 田 英 三

な

くらませて、唇をひらいて奥歯這見せて笑つたうれしそうな顔(本場に馬が笑うんぞぞ……)が世に言う「鼻下長」の初まりかも知れぬと楽しくなつた。私達の時々ホステスにおたでられて、あんな顔をしてゐるのでないかと想ふと夏の夜の怪談以上ゾツとさせられる。

鼻を語るには以前に読んだ芥川龍之介の小説を想ひ出し、書棚の文学全集をさがして見た。短編ですが「鼻」は学生時代に読んだ本の内で、まだ何んとなしに心の片隅にのこる小説だつたが、二十幾年後の今あらためて読む内に、少年時代の考え方と違つた今の私の生活や、思想物事の考え方等に全く一致するもの世に、いつの人人々に新鮮さをもたらすものと感心させられた。鼻があごの下迄たれた男の物語は、人間心理の微妙な推移と、自尊心と周囲の環境等々ユーモア的に人間性を分析した作品として楽しく読む事が出来た。

天狗の鼻も戦前の権力の象徴で、あつたのだが、祭典で子供達に行列の先を行く天狗をきかれても返答が出来ぬ程、その位地に落ちた観がある。天狗の鼻もヘシ折られてしまつた時代になつた。鼻が西向けや尾は東と言う諺もあるが、世間一般があたりまえになつて活しらしくなつて来たのかも知れぬ。

鼻の形状ばかり気を取られていて、鼻本全の姿である嗅覚を忘れていたのか、台所で夕飯の香りが鼻をかすめて来た様だ。

はなはだつまらぬ話(鼻)で恐縮恐縮。